

えほんの紹介

『まりーちゃんのくりすます』（岩波の子どもの本）

フランスワーズ 文・絵 与田準一 訳 岩波書店

まりーちゃんと仲よしの白いひつじのぱたぽんがクリスマスのお話をしています。

まりーちゃんはぱたぽんに、おりこうにしている、暖炉のそばに木のくつをおいておくと、サンタクロースがその中にプレゼントをとどけてくれるといいます。でも、ぱたぽんはくつをぬぐことができないので暖炉のそばにおくことができません。どうしましょう…？まりーちゃんはいいいことを思いつきました。それは…。

まりーちゃんとぱたぽんの会話は歌のようにくり返されます。優しい色彩、柔らかな線で描かれた絵は愛らしく、温かい気持ちにしてくれます。

まりーちゃん、ぱたぽん、そしてだれにとっても楽しいクリスマスでありますように！



ちいさなおともだち だだんだん だいほき

Kちゃんはアンパンマンにでてくる「だだんだん」が大好きです。だだんだんはばいきんまんがつくったロボットで、何でもふみつぶしてしまえますが、子どもに人気のキャラクターです。Kちゃんがリハビリの時、「よーし、だだんだんあるきをするよー」といって、両手はだだんだんの手にして、口はいちもんじ、足をどしんどしんとふみながら歩きます。見ているととても強くてこわそうです。また、ブロックで上手にだだんだんを作れます。

保育の時間では、紙皿の裏面にだだんだんの顔をママに書いてもらいます。クリスマスのサンタさんとツリーの折り紙パーツをはりつける工作では、あれー？いつの間にかだだんだんになってない？

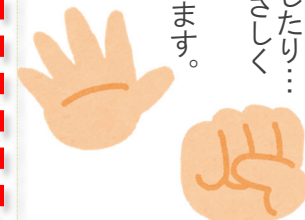
パパ作のねんどのだだんだん⇒



季節のわらべうた

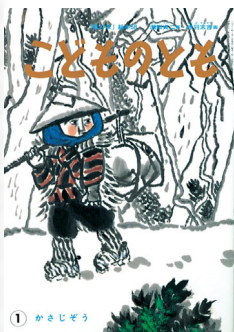
♪ おやゆび ねむれ さしゆびも  
なかゆび  
べいゆび (くすりゆびのじやう)  
こゆび みな ねんねしな  
ねんねしな ねんねしなあゝ

手の五本の指を、一本ずつ倒したり起したり…最後は全部の指を倒してつつみこんで、やさしくなでながらねんねさせます。ゆったりした調べに子どもの目もふさがります。



『かさじぞう』

瀬田貞二 再話 赤羽末吉 絵 福音館書店



むかし、あるところに、貧乏なじいさんとばあさんがあった。大みそかの日、じいさんは町へかさを売りにいったが、かさは一つも売れず、正月のもちを買えなかった。帰り道、六じぞうさまが吹雪の中に立っていたので、じいさんはじぞうさまにかさと手ぬぐいをかぶせて帰った。すると、正月の朝「よういさ、よういさ、かさとってかぶせた じいあ ばああ うちはどこだ」と、そりひきの声が聞こえてきた。じいさんが戸をあけると……。

なつかしい昔話のひとつです。正月のもちや宝ものをじいあ、ばああうちに運んできてくれたのは誰だったのでしょうか。昔話の良さが心にしみてきます。

「それから ふたりは、しあわせになったとき。どつとはらい。」

絵本クイズ

みんなのよく知っている絵本です。右のわくから字をえらんでマスをうめ、絵本の名まえをあててください。

- り と ぐ
- お き か
- ぶ く
- ち さ な さ ちゃん
- ひ ま こ る
- か じ う



て さ ろ ぞ せ  
お と な ね こ  
ぐ い ろ う ぶ

